

総合的な学習とキャリア教育に関する一考察

橋本 健夫*・若木 容子**

A Study on the relationship between career educations and integrated learnings

Tateo HASHIMOTO・Yōko WAKAKI

Summary

Young neet and part-time jobber are increasing, because the employment system is changed by the coming of aging society with fewer children and the change of structure of economy and industry. The Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology takes this situation seriously, and begins to attempt the enhancement of the career education. This paper investigates and analyzes current status of career education in elementary school and junior high school. The results showed that although children and students recognized the merit of vocational training in career education, they were not quite satisfied with the length of training time and the kind of occupation they can choose. Furthermore, the result revealed that consecutive career education from the elementary school to the junior high school was not carried out very much. We proposed the use of integrated study in common with elementary school and junior high school and explored the ideal way of the career education in the elementary school.

要約

少子高齢化社会の到来や経済及び産業の構造変化によって雇用形態が流動化し、若者のフリーターやニートが増加している。これを受けて文部科学省もキャリア教育の充実を図り始めている。本研究では、現在の小・中学校のキャリア教育の実態を調査するとともに分析を行った。その結果、児童・生徒は、学校がキャリア教育の一環として実施している職場体験学習に対して意義あるものと捉えてはいるものの体験時間や職種に不満を抱いていること、また、小学校から中学校への連続したキャリア教育が殆ど実施されていないことなどが明らかになった。そこで、小・中学校に共通な総合的な学習の時間の活用を提案するとともに、小学校でのキャリア教育であり方を探る実践を行った。

* 長崎大学教育学部 ** 東大阪市立孔衛東小学校

はじめに

少子高齢社会の到来、産業・経済の構造的変化及び雇用形態の多様化・流動化などを背景として、雇用についての不透明さが増し、若者たちの職業選択をめぐる環境は大きく変化してきている。このため、フリーターやニートが増大し、若者の勤労観・職業観の未成熟さや、彼らの社会人、職業人としての基礎的・基本的な資質・能力の不十分さが指摘されている。この状況を改善するためには、子どもたちが、明確な目的意識を持って日々の学業生活に取り組み、将来の自分の姿を明確に思い描く態度を身につけることが重要となる。また、激しい社会の変化に対応し、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力や確固たる勤労観、職業観を身に付ける必要もある。

このような状況を踏まえて、文部科学省は、勤労観や職業観を育むキャリア教育の充実の必要性を指摘し始めている⁽¹⁾。この中で、キャリア教育を「児童一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」として規定している。そして、学校の教育活動全体を通じて、児童・生徒の発達段階に応じた小学校段階からの組織的・系統的なキャリア教育の推進が必要であるということも指摘している。そして、その試みとして、平成16年度には小学校・中学校・高等学校を通じ組織的・系統的なキャリア教育を行うための指導方法・指導内容の開発等を行う「キャリア教育推進地域指定事業」、平成17年度には地域の教育力を最大限に活用したキャリア教育の推進を図るための調査研究の「キャリア教育実践プロジェクト」を実施した。

一方、学校教育は、平成10年の学習指導要領の改訂により、「生きる力」の育成を目指すことになった。このために、地域や学校、児童生徒の実態等に応じて、横断的・総合的な学習や児童の興味・関心等にもとづく学習など創意工夫を生かした教育活動を行う時間として「総合的な学習の時間」が創設された。これに従い、児童生徒は、自然体験や社会体験、観察・実験、見学・調査などの体験的な学習、問題解決的な学習をすることとなった。この「総合的な学習の時間」のテーマとしては、「国際理解、情報、環境、福祉・健康」が取り上げられ、多くの小・中学校においてこれらに関する学習が実践されている。

しかし、児童生徒の職業意識を高めるための「キャリア教育」をテーマにした「総合的な学習の時間」の実践は少ない。これからの社会を生きる子どもたちが、身につけなければならない能力や判断力を、体験を通して学ぶためには、「総合的な学習の時間」におけるキャリア教育の促進がなければならない。

そこで、本研究では、「総合的な学習の時間」におけるキャリア教育の在り方を追及したいと考えた。

1 「総合的な学習の時間」の意義と長崎県の実態

総合的な学習の時間のねらいとしては、次の4つが挙げられている。

- (1) 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質能力を育てること。
- (2) 情報の集め方、調べ方、まとめ方、報告や発表・討論の仕方などの、学び方やものの考え方を身に付けること。
- (3) 問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育成すること。

(4) 自己の生き方についての自覚を深めること。

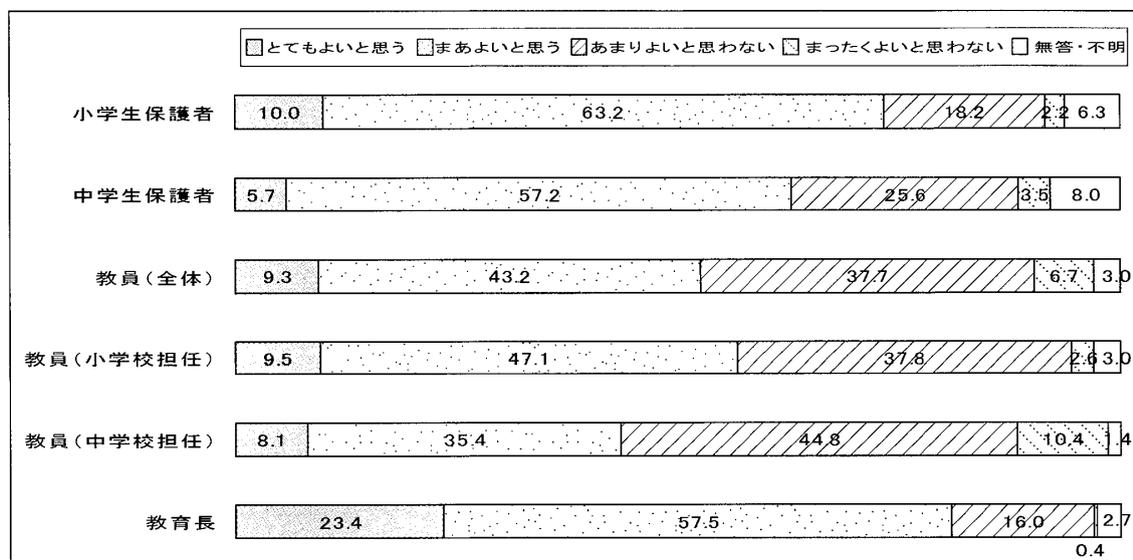
これらのねらいを達成するために、学習指導要領に例示された学習がある。そこで、長崎県下の小・中学校における総合的な学習の時間の実施状況を県のデータをもとに実施率が高い順にまとめたものが、表1である。

表1 長崎県で取り組まれている課題

順位	小学校 (400校)	中学校 (197校)
1	国際理解	職業学習
2	情報	地域の文化
3	福祉・健康	福祉・健康
4	環境 (エコ)	平和学習
5	地域の文化	環境

(調査時期：平成16年3～4月)

表1に示されているように、小学校では国際理解をテーマにした取り組みが、中学校では職場体験などの職業学習が最も多く実践されている。平成14年度に完全実施されてから5年間の経過した。この総合的な学習の時間に対する社会の評価はどのようなものなのであろうか。朝日新聞が保護者や教員から得られた回答をまとめている。それを図1として示す。



〈注〉：数字はその回答が占める割合

2006年6月19日付 朝日新聞

図1 「総合的な学習の時間」 についての評価

図1から分かるように、小・中学校の保護者等は、総合的な学習を肯定的にとらえている。しかし、中学校教員の意見は、半数以上が否定的であり、総合的な学習の時間の充実に向けたキーポイントになっている。

2 キャリア教育の充実が強調される背景

子どもたちの進路選択の環境が激変しつつあることはすでに並べた。その結果として、平成4年に101万人だったフリーターは、平成14年には209万人、平成17年には217万人になっている。また、学業にも仕事にもつかないニートは、現在52万人と推定されている。長崎県においてもフリーターが25,000人以上、ニートが5,000人にも上がっている。

この状況のもとでキャリア教育の必要性が論じられているのである。この中で、次の事柄が取り上げられ、検討が加えられた。

① 学校から社会への移行をめぐる課題

- 就職・就業をめぐる環境の変化
- 若者の勤労観、職業観や社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質をめぐる課題

② 子どもたちの生活・意識の変容

- 精神的・社会的自立が遅れ、人間関係をうまく築くことができない、自分で意志決定ができない、自己肯定感を持ってない、将来に希望を持つことができない、進路を選ぼうとしないなど、子どもたちの生活・意識の変容
- 高学歴社会におけるモラトリアム傾向が強くなり、進学も就職もしなかつたり、進路意識や目的意識が希薄なまま「とりあえず」進学したりする若者の増加

そして、キャリア教育を進めるにあたっての基本的な用語が、まず明確にされた⁽²⁾。「キャリア」と「キャリア教育」については、次のように述べられている。

「キャリア」

個人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積

「キャリア教育」

児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育

また、学校教育におけるキャリア教育のねらいとして、次のことが挙げられている。

- 子どもたちが「生きる力」を身に付け、明確な目的意識を持つこと
- 激しい社会の変化に対応し、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力やしっかりとした勤労観、職業観を身に付けること
- それぞれが直面する様々な課題に柔軟にかつたくましく対応し、自立すること

これらのねらいが、総合的な学習の時間のキャリア教育の中で達成されていく必要がある。また、このねらいは、生きる力の育成にも欠かすことができない。その意味で、キャリア教育は、総合的な学習の時間の特性を生かして行うことが必須となる。

3 長崎県におけるキャリア教育

総合的な学習の時間とキャリア教育の関連については上で述べたが、文部科学省も総合的な学習の時間におけるキャリア教育の充実を強く指摘している。そこで、その充実に向けた考察を行うために長崎県下の実践例を調査した。その中の特徴的なものを次に紹介したい。

① A 中学校の実践

キャリア教育は教科や道徳、特別活動など教育活動全体を通して行うものだととらえ、A中学校では「特別活動」の時間を使って3年間を通じたキャリア教育を行っている。第1学年の「自分を知る」学習活動から、スタートする。まず、生徒は、教師が作った質問項目に答えることで自分のよい所や能力、特質を改めて知り自己分析をする。そして、第2学年からは、職業についての具体的な調査を行っていく。この学習は、①学ぶことの意義や目的を考えよう→②将来の希望を持とう→③働く人々に学ぼう→④職業の内容を調べよう→⑤ WorkWork 発表会→⑥進路計画を立てよう（全て各1時間ずつ）という流れに沿って進められている職場体験学習は行われていない。その理由は、校区を持たないため事業所の受け入れなど地域の協力を得ることが難しいということである。県下の中学校では、この特別活動の時間を利用した形は少ない。

② B 中学校の実践

B中学校では、総合的な学習の時間を活用した3年間を通じたキャリア教育を行っている。第1学年が「自分を知る」、第2学年が「職業の世界」、第3学年が「自己の将来を見つめる」というテーマで進められる。第2・3学年で実施する「職場体験学習」は、「総合的な学習の時間」を利用して7月の1・2週目あたりに実施されており、生徒にとって大変価値ある体験活動ととらえられている。生徒たちは第1学年で、職場訪問・見学を体験し、第2・3学年では、準備を行う事前指導（3時間程度）→3日間の職場体験（1日6時間×3日間）→振り返りやお礼状作成を行う事後指導（1～2時間程度）という形で体験活動をする。また、職場体験学習中の生徒の様子やワークシート、生徒を受け入れた事業者にも評価を依頼しており、それらを活動の評価の材料にしている。この総合的な学習の時間を活用したキャリア教育を行っている中学校は多い。

このように、行われている時間や方法は異なるが、系統的に創意工夫を凝らした活動がみられる。中でも、職場体験学習が、キャリア教育の充実に大変意義ある体験活動だととらえられている場合が多い。そこで、「総合的な学習の時間」において重視されている体験活動としての職場体験学習を詳しく調査することにした。

4 職場体験学習のねらい

職場体験学習とは、生徒が事業所などの職場で働くことを通じて、職業や仕事の実際について体験したり、働く人々と接したりする学習活動をいう。職場体験やインターンシップ等の体験活動は、職業や仕事の可能性や適正の理解、自己有用感の獲得、学ぶことの意義の理解と学習意欲の向上等、様々な教育効果が期待される。職業に関わる体験は、「働くこと」と疎遠になりがちであった学校教育の在り方を見直し、今、教育に求められている「学ぶこと」や「働くこと」、「生きること」の尊さを実感させる具体的な実践の場となっている。特に、中学校における職場体験学習は、小学校での街探検、職場見学等から、高等学校でのインターンシップ等へと体験活動を系統的につなげていく意味において、重要な役割を持つと考えられる。

また、職場体験学習は、体験を重視した教育の改善・充実に資するためや、勤労観、職業観の育成のためだけの活動でなく、児童生徒の人間形成や、学校・地域・家庭の資質の向上など様々な教育的効果も期待できる。しかし、職場体験学習の高い効果が期待されてい

る一方で、職場体験学習が進路指導の代表的な取り組みの行事として単発的に完結してしまい、その実施方法や内容の意味づけが十分に生徒に理解されないという批判も存在している。

5 職場体験に参加した生徒を対象とした調査

キャリア教育の一つの形としての職場体験学習を考えるにあたって、生徒が職場体験をどのように感じているかを把握する必要がある。このために協力頂けるC中学校とD中学校で調査を行った。

- 調査対象：長崎市内の中学校：2校〔生徒数計：284名〕
- 調査時期：2005年11月
- 回収率：100%
- 調査内容：参考資料として添付した調査用紙にも示したように、職場体験学習で体験した仕事内容、感じたこと、職場体験学習の改善点を聞く内容となっている。

まず調査対象となった2中学校の職場体験学習の概要を表2として示したい。

項目	中学校	C中学校	D中学校
行っている時間		総合的な学習の時間	総合的な学習の時間
行っている学年		第2学年	第2学年
依頼事業所数		46箇所	30箇所
期間（1日あたり）		3日間（6時間）	2日間（6時間）
派遣人数		3人	2～5人以上
職業選択・依頼の方法		生徒から希望職職種を聞き、教師が受け入れ可能な事業所を確保し生徒の体験先が決定する。依頼は、生徒が電話と直接訪問によって行う。	生徒達自身が興味・関心のある事業所先を選び、自ら依頼の電話をして体験できる事業所を確保する。その後、直接訪問も行う。
事前指導・事前学習		オリエンテーションのみ	オリエンテーション・職業・礼儀に関する講話・調べ学習
教材		職場体験学習の手引き	ワークシート・生徒のノート
引率者		引率者なし。受け入れ事業所を巡回する。	引率者あり。生徒の職場体験時には、学校で待機している。
事後指導・事後学習		事業所毎に生徒を集め指導を行う。まとめたことを発表する。事業所にお礼状を書く。	事業所毎に生徒を集め指導を行う。ワークシートにまとめ発表会を行う。事業所に感想文や発表会案内を送付する。

表2 C中学校とD中学校の職場体験学習の比較

C中学校とD中学校では、事前指導・事前学習、職業選択の方法に差が見られるが、職場体験学習の意義については、表3に示すように両校ともにその差は表れなかった。

両校ともに職業を知るに役立ったと答えた生徒が7割台に止まっている点は、キャリア教育の観点からいえば改善する必要がある。

次に、職場体験学習で生徒たちが感じたことを挙げてもらった結果を表4に示している。ここに示されているように、両中学校の生徒は、ともに働くことの大変さ、挨拶や言葉

表3 職場体験学習が役立ったこと

選 択 肢	回答者数 (名)		割合 (%)	
	C中学校	D中学校	C中学校	D中学校
①職業を知ること	102	108	76	72
②職業を選ぶこと	19	38	14	28
③わからない	11	4	8	3
④その他	4	2	3	1

表4 職場体験学習で感じたこと

選 択 肢	回答者数 (名)		割合 (%)	
	C中学校	D中学校	C中学校	D中学校
①仕事に必要な技術	31	42	23	28
②働くことの楽しさ	71	63	53	42
③働くことの大変さ	118	129	87	87
④仕事に関する勉強の必要性	25	44	19	30
⑤挨拶や言葉使いなどの礼儀作法	100	80	74	54
⑥時間を守ることの大切さ	71	40	53	27
⑦きちんとした身なりの大切さ	38	37	28	25
⑧人間関係の大切さ	59	50	44	34
⑨学校と社会との違い	50	54	37	36
⑩その他	1	5	1	3

表5 もう一度職場体験をしたいという希望

選 択 肢	回答者数 (名)		割合 (%)	
	C中学校	D中学校	C中学校	D中学校
①あり	110	128	81	86
②なし	24	21	18	14
③無回答	1	0	1	0
合 計	135	149	100	100

遣いなどの礼儀作法、働くことの楽しさなどと感じたと半数以上が答えている。

続いて、再度の職場体験学習の希望を聞いた。その結果が表5である。

表5に示されているようにC中学校、D学校の生徒ともに、8割以上の多くの生徒がもう一度体験したいと望んでいる。これは、彼らの意欲や関心の高まりと受け取ることができる。

さらに、職場体験学習の改善点を聞いた。その結果が表6である。

表6に示すように、C中学校、D中学校とも、今のままでいいという回答が最も多い。しかし、その期間や体験した職業への不満の改善を求める声も多い。この不満を表す場として自由記述が使われている。その中には、期間に関して「短

表6 職場体験学習の改善点

選 択 肢	回答者数 (名)		割合 (%)	
	C中学校	D中学校	C中学校	D中学校
①時期	4	8	3	5
②期間	38	43	28	29
③選択方法	7	13	5	9
④職業の種類	21	35	16	23
⑤今のままでいい	67	58	50	39
⑥その他	1	1	1	1
⑦無回答	1	1	1	1

く感じた」、「もう少し体験したかった」などの回答が見られ、職場への配当に関しては、「職種を選ぶ際に自分の希望する職業、興味のある職業がなかった」「第一希望の職業を体験できなかった」などの回答が多く見

られた。

6 小・中学校の教員を対象とした調査

キャリア教育の充実の鍵を握る要因の一つに教員の意識がある。そこで、小・中学校の教員を対象として総合的な学習の時間とキャリア教育に関する意識調査を行った。

○ 調査対象

長崎市内の小学校：38校

長崎市内の中学校：18校

計：56校

○ 調査時期

2005年4月～5月

○ 回収率

長崎市内の小学校：64%

長崎市内の中学校：58%

○ 調査内容

参考資料として添付した調査用紙にも示したように、職場体験学習の実施状況、実施のシステム、キャリア教育との関連を聞く内容となっている。

まず、職場体験学習の実施について聞いた結果が表7である。

表7 職場体験学習の実施

選 択 肢	回答者数 (名)		割合 (%)	
	中学校	小学校	中学校	小学校
①行っている	19	1	100	3
②行っていない	0	37	0	97
合 計	19	38	100	100

このように、職場体験学習は、回答のあった長崎市内の中学校全てで実施されているが、小学校ではほとんど行われていない。

また、文部科学省が提示しているキャリア教育の内容を

知っているかどうかを聞いた結果が表8である。

表8 キャリア教育の浸透

選 択 肢	回答者数 (名)		割合 (%)	
	中学校	小学校	中学校	小学校
①知っている	12	25	63	65
②知らない	6	12	32	32
③無回答	1	1	5	3
合 計	19	38	100	100

表9 キャリア教育の一環としての体験学習の展開

選 択 肢	回答者数 (名)		割合 (%)	
	中学校	小学校	中学校	小学校
①今後も実施	14	3	73	8
②実施する予定はない	1	9	5	24
③わからない	2	19	11	50
④その他	0	5	0	13
⑤無回答	2	2	11	5
合 計	19	38	100	100

を占めていた。これは、小学校段階の総合的な学習の時間にキャリア教育が十分に組み入れられていないことを示している。

これらの結果から、総合的な学習の時間の趣旨を再度理解し、職場体験学習を児童・生徒の自主性の向上に役立つよう十分な時間をかけて展開し、彼らがキャリア教育の目標に沿った意識を持てるようにすることが必要であると判断した。この判断は、小・中学校通じて行えることや、学習を系統的に組み立てることができるのは、「総合的な学習の時間」が最適であると考えたからである。

7 小学校第4学年における応じたキャリア教育の提案

上述した調査結果をふまえ、小学校段階におけるキャリア教育を構想した。著者が担任する小学校第4学年を対象としている。

キャリア教育を推進していく上で重要なことは、社会的自立・職業的自立が、児童生徒の発達課題の達成と深くかかわるということである。文部科学省の「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」においては、小学校段階での職業的（進路）発達の段階が次のように示されている。

- ・自己および他者への積極的関心の形成・発展
- ・身の回りの仕事や環境への関心・意欲の向上
- ・夢や希望、あこがれる自己イメージの獲得
- ・勤労に重んじ目標に向かって努力する態度の形成

これを、踏まえた上で、キャリア教育の実践がなされなければならない。つまり、児童ひとり一人にとって職業を身近に感じ、それに対して自分をどのように変えていくかを考えることがまず必要となる。

ここに示されているように、文部科学省提示のリーフレットの内容を知っていると答えた中学校、小学校の教員はどちらも全体の約6割程度であった。

さらに、総合的な学習の時間を活用したキャリア教育について聞いた結果が表9である。

この表が示すように、キャリア教育の一環としての体験学習は、中学校教員の7割以上が今後も実施したいと回答している。しかし、小学校教員は、実施する予定がないが2割5分、分からないが5割

そこで、著者が担任している学級の児童を対象として次のプロセスでキャリア教育を試みた。体験活動は、学校の方針として実施できないため、教室での学習中心となっている。

- ① 自分の興味が仕事になることを説明する。(新聞記事使用)
- ② 自分のなりたい仕事を考える。(資料の収集, インターネットの使用)
- ③ 職業調べをする。(夏休みを利用し, 家族にも聞く)
- ④ 職業を紹介した著書を読破する。
- ⑤ 担任の夢と今を話す。
- ⑥ 「将来の夢」の作文を書く。
- ⑦ 職業に就いたときの写真を作る。
- ⑧ 「半分成人式」で将来についての発表を行う。

これらは、全て総合的な学習の時間を活用して行った。全ての児童は、積極的に参加し、楽しい学習となった。この学習における児童の代表的な反応を挙げると次のようになる。

- 「将来なりたい夢がない。」と言っていた児童が、「今の自分の興味のある事を将来の夢にしたい」とペットショップの店員さんと思い描いた。
- 代々続く大工の仕事をしたいと言っていた児童が、父親や祖父の仕事の話をインタビューし、仕事の内容や父親の気持ちを知ったことでさらにその想いを深めた。
- スーパーのレジの店員さんになりたいと言っていた児童が「いつも買い物に行った時にレジの店員さんのありがたうの言葉とその笑顔に元気をもらっている。そこで、自分も同じように元気をあげられるような店員さんになりたい」と生活の一場面から素直に感じたことを表現できるようになった。
- 学校図書資料では見つけにくかった、白バイ隊員のバイクや装備を、インターネットで調べだし、『警察官としての将来の自分』の絵を描くのに必要な資料を自ら用意することができた。

このように、児童は、それぞれの活動に対し、興味関心を持って取り組むことができていた。しかし、どの程度、児童の考え方に影響を与えたかについては測定するすべを持たない。ただ、学習中の彼らは自主的に活動し、いつもよりも生き生きとしていた。職業についての意識を身近とするためには、このような積み重ねが必要であると判断している。その反面、小学校段階におけるキャリア教育の難しさも感じた。それは、夢の実現というだけですまされない現実とのギャップをどのように克服するかということである。

おわりに

キャリア教育と総合的な学習の時間の結びつきを考えるとともに、小・中学校でのキャリア教育の実態を調査し、現在の状況を把握した。その上に立って、小学校第4学年でのキャリア教育を試みたが、十分に納得のいくものは、得られなかった。児童が、徐々にではあるが、着実に職業を考えることができる小学校6年間を通したカリキュラムの編成が必要であり、今後、職場に児童が出向くことも含めた学習活動の展開を考えていきたい。

参考文献

- (1) 文部科学省:『リーフレット「キャリア教育の推進に向けて」-児童一人一人の勤労観、職業観を育てるために-』2004

- (2) 橋本健夫, 総合的な学習による学力の質的向上, 理科の教育, 日本理科教育学会編, vol.53, pp.254-256, 2004
- (3) 文部科学省:「キャリア教育に関する総合的な調査研究協力者会議報告」2005
- (4) 橋本健夫・若木容子・広重結子, 総合的な学習とキャリア教育, 日本理科教育学会全国大会発表論文集, p.315, 2005
- (5) 橋本健夫・富山哲之, 総合的な時間とキャリア教育, 日本生活科・総合的学習教育学会第14回全国大会発表要旨集, pp.122-123, 2005

実施前

①生徒の体験する事業先をどのように決定していますか？

1. 学校側が指定する。
2. 事業所のリストを配り、希望を聞き希望通りの事業所に行くことができる。
3. 事業所のリストを配り、希望を聞くがあまり希望通りに行かない場合がある。
4. 生徒達自身が興味・関心のある事業先を探してきて自ら依頼し決定していく。
5. その他 []

②事業先への依頼の方法についてお知らせください。

1. 生徒に一任している。
2. 教師がすべて行う。
3. 教師・生徒が連携して行う。
4. その他 []

③事業所に依頼をするのはいつ頃ですか？

1. 前日～一週間前
2. 1週間前～1ヶ月前
3. 1ヶ月前～2・3ヶ月前
4. 2・3ヶ月前～半年前
5. その他 []

④依頼はどのような形で行っていますか？

1. 電話
2. FAX
3. 直接訪問
4. 手紙
5. その他 []

⑤依頼を受け入れてくれた企業先に学校側から何か条件や指定したことはありますか？

1. ある
2. ない

⑥⑤であると答えた方におたずねします。

どのようなことを事業所に対し体験の条件や指定内容としていますか？該当するものすべてに○をつけてください。

1. 仕事内容
2. 体験実習時間
3. 服装
4. 報酬の有無
5. その他 []

⑦学校側に依頼を受け入れてくれた企業先から何か条件や指定されたことはありますか？

1. ある
2. ない

⑧⑦であると答えた方におたずねします。

どのようなことを事業所から体験の条件や指定内容とされていますか？該当するものすべてに○をつけてください。

1. 仕事内容
2. 体験実習時間
3. 服装
4. 報酬の有無
5. その他 []

⑨職場体験学習の実施前に生徒に行う指導について該当するものすべてに○をつけてください。

1. オリエンテーションのみ
2. 仕事・職業に関する講話等
3. 何も行っていない
4. その他 []

⑩職場体験学習を行う上で学習カードやワークシートを作っていますか？該当するものすべてに○をつけてください。

1. 学習カード・ワークシートのみ
2. 児童のノートなど児童に任意している。
3. 冊子
4. その他 []

実施中

①実習に行くにあたり引率者として誰かついていましたか？

1. 進路指導担当の教師
2. 生徒の担当の教師
3. 保護者
4. その他 ()
5. ついていかなかった

②生徒が職場体験学習を行っている間先生方はどうされていますか？

1. 生徒の派遣された事業所を巡回している。
2. 学校で待機している。
3. その他 []

③派遣先での指導に関しお知らせください。

1. 職場体験中での指導については派遣先に一任している。
2. 学校で指導内容や体験内容を提示している。
3. 職場体験学習のねらい程度は伝えている。
4. その他 []

実施後

①派遣された生徒に賃金や交通費は出ますか？

1. 賃金のみ 2. 交通費のみ 3. 賃金と交通費ともにでる 4. 出ない 5. その他 []

②職場体験学習の実施後に行う生徒の学習活動についてお知らせください。

1. 事業所ごとに体験したこと感じたこと等に関する発表活動を行う。
2. 個人で発表活動を行う。 3. 何も行わない。 4. その他 []

③職場体験学習の実施後に行う教師の指導について該当するものすべてに○をつけてください。

1. オリエンテーションのみ 2. 全体に対する仕事・職業に関する講話等
3. 事業所ごとにし指導を行う。 4. 何も行ってない 5. その他 []

④実施後先生方は具体的にどのような指導を行っていますか？

1. 講話のみ 2. ワークシートや学習カードのみ 3. 発表会などの表現活動を行う
4. その他 [内容:]

⑤職場体験学習を通じて、生徒たちに変化はみられましたか？

1. 大きく変わった 2. 変わったと思う 3. どちらともいえない 4. ほとんど変わっていない
5. まったく変わっていない 6. その他 []
具体的な変化を教えてください。 []

⑥実習後日、生徒から事業所等に対して学習の報告等を行いましたか？

1. 行った [内容:] 2. 行ってない

⑦派遣先への対応として学校及び先生方はどのような対応されていますか？

1. 実施前・後にあいさつ 2. 実施後にのみあいさつ 3. 実施後にアンケートを行っている
4. その後 []

⑧今後、職場体験学習を続ける予定でありますか？

1. 続ける予定である 2. 続けない 3. 未定である

IV：キャリア教育についてお伺いします。

①文部科学省が提示しているキャリア教育の内容を知っていますか？

1. 知っている 2. 知らない

②キャリア教育を行う時間はどのような時間が適当と考えますか？

1. 各教科 [教科名:] 2. 特別活動 3. 総合的な学習の時間 4. その他 []

③キャリア教育の意義は何だと考えますか？該当するものすべてに○をつけてください。

1. 「働くこと」への関心・意欲を高める 2. 学習意欲を向上させる
3. 一人一人のキャリア発達への支援 4. 社会人・職業人としての資質や能力を高める
5. 自立意識を高める 6. 豊かな人間性を育成する 7. 進路を選択する能力を育てる
8. 生き方・将来の夢を考えるきっかけになる 9. 自分の個性・能力への気づきがある。
10. 地域社会の人々との交流ができる 11. その他 []

④キャリア教育の一環としての体験学習を将来的にどのように展開したいですか？

1. 今後実施していく予定である。 2. 今後も実施する予定はない。 3. わからない
4. その他 []